



Before

Renovation Plan

坂本さんは、家屋状況とともに、浴室や脱衣室でKさんの動作状況を確認した。そして、浴槽の出入りの様子を見たとき、あることに気づく。浴槽には手すりのほかバスボードが設置されており、Kさんはボードのグリップに手を添えて左右の足を順番に上げ、530mmの高さの浴槽を正面からまいたのだ。

坂本さんは、バスボードを外せば立位でまただぐこともできそうだと感

「自宅に特殊浴槽カリフトを設置したい」。それがケアマネジャーを通じて入ってきたKさんからの依頼だった。Kさんは70歳代後半で要支援2。交通事故をきっかけに歩行不安定となり、胸・腰部の変性側弯症による姿勢保持困難や痛みがあり、さらにパーキンソン病も発症していた。日常生活は部分的に介助が必要で、特に入浴は夫が毎回介助していた。

坂本さんは、家屋状況とともに、浴室や脱衣室でKさんの動作状況を確認した。そして、浴槽の出入りの様子を見たとき、あることに気づく。浴槽には手すりのほかバスボードが設置されており、Kさんはボードのグリップに手を添えて左右の足を順番に上げ、530mmの高さの浴槽を正面からまいたのだ。



坂本さん

『想いを引き出す』——自立支援に伴走

したが、本人はできないと思いつ込んでいる。一方、介助者の夫も、この先病気が進行しても、特殊浴槽やリフトがあれば妻が望んでいる自宅での入浴を続けられると考えていた。こだわりを否定せず、またできることがあることを理解して達成感を感じてもらいたいと、ケアマネジャーやデイサービスのPTなどとカンファレンスを行ったところ、「立位入浴はできる」と一致。過剰なリフト設置ではなく現状のお風呂のまま立位入浴ができるようにプランを作成。さらに、リフォームに着手する前にショールームにプラン案を体験してもらえ、その結果、介助なしで横まで浴槽から出ることができ、Kさん本人の口からも「立位入浴できそうだなわ!」の声を聞くことができた。洗面化粧台なども体験して確認し、納得してもらった上で、リフォームに着手することができた。

完工から3カ月後に訪問して行ったモニタリングでは、脱衣室に入るところから浴槽の出入りまでスムーズに1人で行うKさんの姿が。さらに、外出への意欲が高まっており、屋外歩行器で買い物に行くなど新たな目標もできた。坂本さんは「最初から天井走行リフトを設置していたら、早々に自立度が下がっていたかもしれない。動作をどことん確認してプランに反映したことで、ご本人の想いを引き出すことができた」と自立支援をサポートできた喜びを語った。西日本リフォーム部百々晃一部長は「移動動線と移動距離、そして曲る回数や広さに着目し工夫したことで、お客様の自立度を高め、ご家族介助負担を減らすことができた良い事例」と評価した。



改修後



改修前



くらしの中で「できる」ことを増やし、そして、次に「やりたい」ことに向かっていただきたい、そんな想いをシンボルマークにしました。パナソニックの介護用品で「心身が前向きに、その先に歩みだす」。私らしくいきいきとしたくらしを実現できる社会を創ることそれが私たちの存在意義です。



パナソニック エイジフリー

エイジフリーショップ

お問い合わせ先：営業企画部 06-6908-8122

